

## 平成 23 年度第 1 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 23 年 7 月 7 日（木）

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 8 名、道立図書館職員 13 名

傍聴者：なし

### 議 事

- 1 平成 22 年度業務実績について
- 2 北海道立図書館事業推進計画について（達成状況）
- 3 その他

### 事務連絡

澤田委員の辞任に伴い、6 月 22 日の北海道教育委員会で任命された神野委員の紹介  
6 月 1 日付け職員の異動について－佐藤副館長、高久総務企画部長、楠山管理課長

### 会議概要（○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

#### 1 平成 22 年度業務実績について

金山利用サービス部長説明（資料：「平成 22 年度業務実績報告書」）

- 運営計画書と実績報告書を対比しようとする項目が一致しない。運営計画書に目標数値が書かれてあるが、それがどう検証されたのかわからないので、全部は難しいと思うが、運営計画書でたてた目標がどのように達成されたのか、実績報告書でわかるようにしていただきたい。
  - ・ 検討していく。
- 図書館未設置の市町村というのは、図書館はないけれども他に代替する施設があるということか。
  - ・ はい。公民館図書室とか、福祉会館など施設の中に図書室がある。
- そういうものがあれば取り立てて図書館を設置する必要はないという認識でよいか。
  - ・ 一般的に資料費や人の配置、施設の広さ、設備など、図書館と図書室の差異はある。図書館を設置するように支援する必要があるが、厳しい状況なので図書室が充実するように支援している。
  - ・ 図書室では専任の職員が少なく、蔵書冊数や貸出冊数を比較すると図書館と図書室では倍近く差があり、図書館として活動するよう支援している。
- 道立図書館が貸出するときの条件は、図書館でも図書室でも変わらないか。

- ・ 変わらない。むしろ、未設置のところには市町村活動支援事業で特に支援をしている。
- 未設置の市町村の中でも活動の差がある。活性化するには市町村が動かないといけな  
いということか。
- ・ 市町村の対応によるところが一番大きい。新聞記事にある天塩町は小さな図書室だが  
職員の方が手作りで整備している中で、道立も応援して貸出が倍になった。特に親子の  
利用が増えたと聞いている。受け入れ市町村の体制がとれないと難しいところがある。
- 協力貸出しについて、市町村の要望する本を貸出するのか。あるいは図書館で選書し  
て貸出をするのか。
- ・ 協力貸出しの中の展示貸出しのようなテーマ性を持った貸出依頼の場合は選書するこ  
ともあるが、市町村の地域の住民の求めに応じて市町村を窓口にして借りるのが基本。
- ・ 支援貸出しは活動を支援するというので、まとめて 300 冊とか貸出するのでこちら  
で選書することが多い。
- 資料の収集のところで緊急雇用で資料整備したとあったが、まだ大分残っているのか。
- ・ 北方資料でやっているのは主に教育要覧、学校要覧、パンフレット類だが、ある程度  
整理できた。北海道関係の雑誌の目次についても、バックナンバーは整理できている。
- 年度別入館者数について 30%以上増えている。以前は手動カウンターで今度はセンサ  
ーという取り方の違いによると思うが。
- 21 年度と 22 年度はカウントの仕方が違うので比較にならない。22 年度をベースにし  
ていくしかないと思う。

## 2 北海道立図書館事業推進計画について（達成状況）

高久総務企画部長説明（資料：「北海道立図書館行動計画」）

- 欠席した委員からの意見だが、「20 地域（江別市）との連携」とあるのは特定の地域と  
の連携としか読み取れない。母体組織への働きかけ―道庁のサテライトなど―、そうい  
う形での連携、PR に積極的に取り組んでもよいのではないか。
- ・ 実施している道政サポートサービスを、この項目でどう表現していくか、検討する。
- 「05 資料の媒体変換」で「②その他の音声テープのCD化」について、以前は実施と  
なっていたが継続検討になったのは、実施の見込みがたたないということか。
- ・ 予算の問題があるので実施に至っていないということで、実施の方向で検討している。
- 「30 祝日開館及び開館時間の延長」とあるが、以前は 23 年度以降本格実施の是非につ  
いて検討となっていたと思うが、次年度以降にずれた理由は何か。

- ・ 試行実施から 7、8 年経過しているのので、昨年度、本格実施か廃止か議論した。市町村支援事業の充実や機構改正で定数 2 減などの状況変化があるので、試行の実態を踏まえ廃止する方向で本庁と協議したが、利用者に対する説明や一度実施したことを廃止する相当の理由づけを整理できなかった。
- 協議会でも定数削減などの見直しがあるので、廃止してよいという意見があったが。
  - ・ 延長開館は 6～8 月の毎週木・金曜日に行っているが、同じ時期に市町村支援活動で地域に出て行く回数が増えている。通常業務あるいは市町村支援事業に、延長開館が支障あるのかどうか検証できる最初の年なので、もう 1 年、検証していきたい。
- 量的なサービスと質的なサービスがあるが、時間延長は量的なサービス。質的なサービスという点で、人数が減ったことは理由として通用するのではないか。
  - ・ 延長開館時の利用者は多くて 20 人弱、1 割くらいと思う。延長開館を意識して利用している方は少ないと思う。他の道立施設全体から考えた中で、理由整理ができるよう本庁と調整していきたい。
- 一度実施したことだからというのではなく、柔軟に対応することがいいのではないか。利用者は廃止について猛烈に反対するという事にはならないと思うが。

### 3 その他

#### (1) 新たな北海道立図書館事業推進計画について

鈴木北方資料室長説明（資料：「新たな事業推進計画の位置付けについて（案）」・「新『北海道立図書館事業推進計画』の策定について」）

- 道教委の推進計画と時期が重なっているということだが。
  - ・ 同じ 25 年度からなので、一緒に検討していくという形になる。
- その中には図書館の用語は組み込まれるのか。
  - ・ その予定だ。道教委の推進計画と同じく子どもの読書推進計画の 3 期目が始まるので、情報交換しながら検討していく。
- 北海道教育推進計画の個別計画として北海道子どもの読書活動推進計画・北海道生涯学習推進基本構想等が位置づけられているが、道立図書館の新たな計画はそれとどう関連するのか。北海道教育推進計画の個別計画ではないということではよいか。
  - ・ 個別計画ではない。
- 北海道生涯学習推進基本構想の中にも文言が盛り込まれてということか。
  - ・ 現在の道教委の推進計画では若干ふれている程度なので、新たな計画では北海道全体の中での位置づけを明確にしよう。
- この計画の対象は誰か。特に子どもということか。
  - ・ そんなことはない。子どもに力が入っているということはあるが、子どもに特化するわけではない。

- 学習とか教育とか、先生方など教育関係者との関わりもあるのか。
  - ・ 子ども読書推進計画と合わせてやるので、達成状況など情報交換しながら、図書館では市町村の子どもの読書活動の状況を聞きながらやっていきたい。
- 図書館は読書を推進することだけと思われるが、本来の図書館は文化全体を継承、啓発するものであることを記載すべきである。
  - ・ 今の事業推進計画は図書館単独で作った計画である。図書館の役割が広範囲に意識されるようになってきたので、道教委の計画も新しく立てる時期とも重なり、今度は道教委を含め様々な場で議論されると思う。できる限り広く道民の要望を計画の中で盛り込んでいきたいと考えている。
- 行動計画を立てたときにどのくらい予算が必要かというのは検討されているか。
  - ・ 具体的な文言の整理はできるが、予算的な数字を計算すると時間がかかりすぎる。
  - ・ 図書館の仕事は人の部分が大きいので、その方向性を明確にしたいと思っている。

## (2) 東日本大震災の復興支援に関する道内市町村の取組状況について

高久総務企画部長説明

(資料：「東日本大震災の復興支援に関する取組状況調査票集計結果」)

- 館長が出席した北日本の会合では、どのような要望、支援について話があったか。
  - ・ 北日本図書館連盟の理事長を今年度から務めていて、6月23・24日に秋田県で行われた北日本図書館連盟の総会及び北日本図書館大会に出席したが、大会では図書館に何かできるのかパネルディスカッションや事例発表で活発に意見交換された。これまで道内、全国的にもいろんな支援がされているが、被災地によって状況も違い、必要な具体的支援が把握しきれない状況である。中・長期的な支援について、地域が何を求めているのか情報収集して要請に対応できるよう、北日本図書館連盟としても全国組織と連携を取りながら、協力していきたいと考えている。今回の総会、大会は積極的に協力していこうという意思統一を図って終会した。
- 道立図書館で集約して何かできるかというところまでは、いっていないということか。
  - ・ 6月17日に行われた全国公共図書館協議会の総会でも話題になったが、これから復興に向けて動いていくときに、中・長期的なビジョンの上で、必要な支援を必要なときにしてほしいという気持ちが強いようだ。当面の支援はいいという気持ちがある。中・長期的にこれからの支援をどうするか要望をきちっと把握した上で、取り組んでいかないといけない。その点で情報収集をしっかりと行い、全国的な組織と連携を密にしてこれからの対応に取り組んでいきたい。
- 北海道ブックシェアリングでは、集めた本を秋ぐらいまでには被災地に送るということだが、道全体として呼びかけているのは北海道ブックシェアリングのようだが。
  - ・ 北海道ブックシェアリングは宮城県を支援をしている。例えば、女川町では現状では

受け入れられないので、ブックシェアリングが女川町に建物を造ってそこに本を置き、そこからどういうことができるのか、進めていく予定と聞いている。

- 復興の狼煙プロジェクトのポスター展を企画しているが、被災地で文庫をつくり子どもたちがとても喜んでいるとニュースで聞いたので、その実態を知りたかった。
- 石狩市では支援として人を派遣したが、図書館の職員としてではなく市の職員として体力勝負の仕事をしてきたと聞いている。
  - ・ 北日本図書館大会で石狩市の事例発表があったが、名取市と交流があったのがきっかけで状況を聞いたところ、図書館が被災して休館していたということだったので、一日でも早く開館できるよう手伝ってきたと聞いている。

#### 情報提供

『北の資料－北方資料室 40 周年記念号－』（鈴木北方資料室長説明）

- これは素晴らしい資料だと思う。広報担当者が記者クラブなどに行って積極的に説明するとよい。
- NHK ラジオで開拓記念館の番組が毎週放送されているが、記念館の展示に関連した資料として北方資料室の資料を紹介してもよいのではないか。
- 開拓記念館、図書館、美術館など連携した提案をするとよいのではないか。
  - ・ 放送局が番組を作成するとき所蔵資料を撮影しにくることもある。
- 放送されている中で、道立図書館提供となっているのか。
  - ・ それは必ずお願いしている。
- 道立の本を借りられると知らない人が多いのではないか。たくさん PR して、借りやすいイメージを広めてほしい。
- 北方資料に限らず道立図書館の蔵書は道民全員の宝だから、道民にできるだけ PR してほしい。